

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

病院長名	錦見 尚道
453-8511	
所在地	名古屋市中村区道下町3丁目3番地
交通案内	地下鉄東山線「中村日赤」駅下車 市バス・名鉄バス「中村保健センター南」下車

□ 病院の特徴

当院は名古屋市内西部に位置し、一日平均外来患者数約 1,400 名、病床数（許可病床数）818 床、職員数 1,800 名と、この地域の基幹病院の一つです。救命救急センター、小児医療センター、総合周産期母子医療センター、造血細胞移植センター、緩和ケアセンター、化学療法センターを運営するとともに、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患などの診療でも専門科の壁を越えた医療を実践するシステムが整備されており、活力にあふれています。どの領域においても潤沢な症例数と多数の剖検症例を有しており、急性疾患から慢性疾患まで稀少疾患を含む豊富でバラエティーに富んだ症例を経験することが可能な病院です。専攻医が思い切り腕を振るうことができるアクティブな研修環境は当院の伝統です。

□ 研修プログラムの特徴

外科専門研修プログラム

名古屋医療圏の中心的な急性期病院である当院が基幹施設となり、専門研修施設群はサブスペシャリティ 5 領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）の研修指定を受けているので、サブスペシャリティ研修指導医のもとで外科専門研修を行うことが可能です。そのため、外科領域全般の専門研修がそれぞれの研修のサブスペシャリティ専門医取得へ連動しています。

地域の連携施設とともに病院施設群を構成し、専攻医はこれらの施設群をローテートすることで、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能です。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。都市型の基幹病院では、人を含む医療資源が豊富に利用可能なため、時として冗長に用いられる場合がありますが、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで、医師としての基本的な力を獲得し限られた医療資源を効率的に利用できるようになります。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことは非常に大切であると考えています。当院外科専門研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮しています。

本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）で組まれており、地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解し実践することや、消化器がん患者の緩和ケアなど、ADL の低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案など、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。



□ 主な連携施設

津島市民病院
国家公務員共済組合連合会 名城病院
医療法人愛生会総合上飯田第一病院
稲沢市民病院
新城市民病院
国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院
公立大学法人 名古屋市立大学病院
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

□ メッセージ

プログラム統括責任者（一般消化器外科第一部長 三宅 秀夫）

当科は消化器外科領域の外科治療を行っています。ヘルニアなどの“一般外科”も担当しています。また、一般外科医員は、乳腺外科、血管外科、小児外科の手術にも術者や助手で参加しておりますので、広範囲な疾患をカバーできます。

当科は、名古屋大学腫瘍外科学（外科学第一）教室の関連施設ですので、研修については他の関連施設と同様に、2 年間の初期臨床研修終了後、外科専攻医として経験を積みます。



□ 募集要項

・採用予定人数	8 人
・給与／月額	3 年次：487,370 円
・当直回数／月	3 回
・当直料／回	勤務体制に応じて支給
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課 電話番号 052-481-5111（内線 54145） E メール kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp